

# 資料7-2

令和6年(2024年)5月29日(水)  
第7回市民参加推進審議会

## 第6回八王子市市民参加推進審議会まとめ

### 【第6回配布資料】

- 資料6-1：第5回八王子市市民参加推進審議会（第8期）会議録
- 資料6-2：市民参加条例の運用状況について
- 資料6-3：令和4年度（2022年度）市民参加実施事業実態調査まとめ
- 資料6-4：計画策定、条例制定等（市民参加条例第6条該当）における市民参加実施状況（令和4年度末時点）

### 【市民参加条例の運用状況の検証について】

#### ≪審議内容≫

#### [市の取り組みに対する評価]

- ・市がSNSやYouTubeによる発信をはじめ、様々な取り組みを行っていると感じた。
- ・審議会に参加したことで、市が色々な取り組みを行っているということを感じるようになった。市の取り組みに対し一定の評価ができると考えている。

#### [市民参加のきっかけや場の提供]

- ・一般の市民が、もっと市政に触れる機会があれば良いと思う。
- ・チャンスをもたらした人は視野が広がるが、そのようなチャンスを得る機会が少ないのではないかと思う。
- ・きっかけがあれば参加できる場所は確保されている。今後は、参加に向けた声掛けができる場所をどのように増やしていくか、ということが重要。
- ・市の広報紙は紙媒体で投函されるが、中を見ない市民も多く、そのような市民はどのような情報が載っているのかを知らない。それが市民参加へのネックになっているのではないか。
- ・機会の確保や場の提供が物足りないと感じる。市が複合的に取り組んでいることは承知しているが、それが知られていない。
- ・敷居を下げることも大切だが、入り口がたくさんあるということが重要だと思う。

#### [市民参加という言葉の意味合いや市民参加の在り方]

- ・市民参加の6手法という考え方が古いと感じる。市が何か行う際に市民の声を聞くというのは当たり前に行われている。
- ・一定程度の範囲については行政ではなく地域の中で解決していくという方向に向かっているのではないか。

- ・市民参加が進み市民参画となり、今では共創という言葉も使われている。市民参加という言葉自体が古いのではないか。
- ・市民参加という言葉の意味合いが、時代のすう勢により変化してきているということについては答申に入れる必要があるのではないか

[市民参加に伴う業務負担と、市が注力すべきコア業務との関係性]

- ・パブリックコメント手続は、実施する側である市にとっても負担が大きい。市民としては、施策を推進するということに力を注いでほしい。それ以外のところに労力がかかってしまっている。
- ・地域と共に創っていくという観点から、どうあるべきかという議論をした方が良いのではないか。
- ・市が様々な工夫をして情報発信し、入りやすく分かりやすくという取り組みを行っていることが、やってあげるサービスになってしまっており、市民参加条例の基本理念に矛盾する部分が出てきてしまっているようにも感じる。
- ・現在の考え方は、パブリックコメントの意見数を増やすということが一つの指標になるというものだった。しかし、一方でそれはコア業務以外が増えていくことになるもの。
- ・市民参加の指標についてはここで結論が出るものではないが、問題を投げかけるという趣旨の答申を出しても良いのではないかと思う。

#### 《第7回審議会のヒアリング対象》

- ・諮問事項「団体や企業を通じた市民参加の裾野を拡大させるための方策について」につながる、企業と多くの接点を持った取り組みを実施した男女共同参画課と、先進的手法としてXRを活用し、分かりやすく楽しいという体験を通じて、積極的に建設的な意見を言える場を整えた土地利用計画課をヒアリング対象とする。